

つどい

第 433 号
2024.11.1

発行・叢中歴史同好会
責任者 小川 滋
〒151-8530 東京都目黒区目黒3-1-1
TEL 03-3481-1111 FAX 03-3481-1112
E-MAIL tsudoi@tsudoi.or.jp

難波からの北上路(上)

『古代史の海』編集代表 上遠野 浩一



はじめに

本稿は、難波京と淀川右岸の駅路(山陽道)とを結ぶ「難波からの北上路」ともいうべき道路の復原を目的とする。

『続日本紀』(1)和銅四年(七一)正月丁未(丙午朔二)には、平城京移転直後、次の記事がみえる。

和銅四年正月丁未。始めて都亭驛を置く。山背国相楽郡岡田驛。綴喜郡山本驛。河内国交野郡楠葉驛。攝津國嶋上郡大原驛。嶋下郡殖村驛。伊賀國阿閉郡新家驛。

都亭驛とは、諸説あるが平城京内におかれた各駅路の拠点であろう(2)。各駅路は

難波からの北上路(上) 上遠野 浩一
記録
生駒西麓の古墳を歩く 古高 邦子

都亭驛を起点として、各地方に伸びていった。この記事からは、平城京から北上して河内国交野郡楠葉驛で淀川を渡り、攝津國嶋上郡大原驛、嶋下郡殖村驛を結ぶ山陽道と、相楽郡岡田驛、阿閉郡新家驛を結ぶ東海道が整備されたことがわかる。新京からの新たな交通路として山陽道と東海道が設置されたということであろう。すべての駅路がここに記されていないのは、ここで整備された新設駅路が山陽道と東海道で、他の駅路は、平城京移転前と同じ道路を利用できたためであろう。ここにみえる山陽道上の大原驛・殖村驛とも現地比定がなされているわけではないが、淀川右岸を丘陵沿いに西進した道路が浮かぶ。『延喜式』(3)卷二十八「諸国駅伝馬条」は山城国に山崎驛、摂津国に草野驛を記しており、おそら